

昭和63年度冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡)

関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和63年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成元年9月11日、日本都市センターにおいて開催した。

本年度供試された冬作関係除草剤は、作用性試験11剤、適用性試験32剤、生育調節剤は、作

用性試験5剤、適用性試験5剤であった。

このうち、適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行なった。

その結果は、次表のとおりである。

昭和63年度 冬作関係除草剤・生育調節剤中央判定および使用基準

A. 除 草 剤

I 小 麦

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量／a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. ANK-553 乳 ・ペンディメタ リン……30%	「実・継」	土 壌	播 種 後	30～50 ml	全 土 壌 〔砂土を除く〕	全 域 (畑作, 水田裏作)	1) 覆土が著しく浅い場合には薬害が出やすいので注意する.	
			小麦1～2葉期, スズメノテッポウ1.5葉期まで.	30～50 ml 〔但し, 寒地は30～40 ml〕	全 土 壌 〔砂土を除く〕	寒地(畑作) 温暖地(畑作, 水田裏作)	1) スズメノカタビラには効果劣る.	・地域拡大. ・効果の再確認.
2. B-3015・P 粒 ・ベンチオカーブ……8% ・プロメトリン……0.8%	「実」	土 壌	播 種 後	400 g	全 土 壌 〔砂土を除く〕	寒地(畑作)	1) 碎土, 整地, 覆土をていねいに行なって均一に散布する.	
				500 g		寒冷地北部(畑作)		
				400～600 g	壤土～埴土	温暖地以西(畑作, 水田裏作)		
				300～400 g	砂 壤 土			
		生育初期処理	スズメノテッポウ1.5葉期まで.	300～500 g	壤土～埴土	温暖地以西(畑作, 水田裏作)		
				300～400 g	砂 壤 土			

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
3. DPX-16 ドライブフロアブル ・スルホチフェニuron ………75%	「実・継」	茎 葉	麦4葉～節間伸長前, スズメノテッポウ4～5葉期まで.	0.75～1 g	壤土～埴土	温暖地東部(畑作, 水田裏作)	1) 一年生広葉雑草およびスズメノテッポウ対象. 2) 体系処理: 土壌処理剤との体系処理で使用する.	・薬量, 処理時期の検討. ・適用土壌拡大. ・地域拡大.
4. EL-107 水和 ・イソキサベン ………50%	「実」	土 壤	播 種 後	4～6 g	全 土 壤 〔砂土を除く〕	寒地, 寒冷地, 温暖地東部(畑作, 水田裏作)	1) 一年生広葉雑草対象. 2) 後作物はイネ科作物に限る.	
5. ELH-200 粒 ・イソキサベン ………0.4 % ・トリフルリン ………2 %	「実・継」	土 壤	播 種 後	400～500 g	全 土 壤 〔砂土を除く〕	寒冷地以西(畑作, 水田裏作)	1) 砕土, 整地, 覆土をていねいに行つて均一に散布する. 2) 後作物はイネ科作物に限る.	・地域拡大.
6. HOK-868 フロアブル ・HOK-868 ………20%	「継」							・薬量と効果, 薬害の再検討.
7. NC-323 水和 ・ピラゾスルフロンエチル ………2 % ・既知化合物 ………50%	「継」							・成分未公開, 効果・薬害の検討, 初年目, 有望.
8. NCA-256 水和 ・ピラゾスルフロンエチル ………10%	「実・継」	土 壤	播 種 後 小麦2～5葉期 (雑草発生始～盛期)	3～4 g	全 土 壤 〔砂土を除く〕	寒冷地, 温暖地東部, 暖地(畑作, 水田裏作)	1) 一年生広葉雑草対象. 2) 砕土, 整地, 覆土をていねいに行つて均一に散布する.	・地域拡大. ・薬害の検討.
9. NY-712 水和 ・ピリデート ………40%	「実・継」	茎 葉	小麦2～3葉期, ムギ生育期(2～3月)	20～30 g 25～35 g	全 土 壤 埴壤土～埴土	寒冷地(畑作) 暖地(水田裏作)	1) 一年生広葉雑草対象(ミチヤナギを除く). 2) 体系処理: イネ科雑草に有効な既登録除草剤と組合せて使用する.	・地域拡大. ・薬量と効果, 薬害の検討.

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
10. PL-10 乳 ・既知化合物A ………15% ・既知化合物B ………10%	「継」							・成分未公開, 効果・薬害の 検討, 初年目.
11. RNC-61 水和 ・ジフルフェニ カン……10% ・CAT……20%	「実・継」	土 壤	播 種 後	5 g	全 土 壤 〔砂土を除く〕	寒地(畑作)	1) 一年生広葉雑草 対象.	・効果の確認.
				7.5~10 g		寒冷地以西 (畑作, 水 田裏作)		
		茎 葉	麦2~4 葉期, 雑 草2葉期 まで.	5~7.5 g 〔但し, 寒 地は5 g〕		全 域 (畑作, 水 田裏作)	1) 展着剤を使用す る. 2) 一年生広葉雑草 対象.	
12. RSH-44乳 ・ジフルフェニ カン……40 g/l ・トリフルラリ ン……400 g/l	「実・継」	土 壤	播 種 後	20~25 ml	全 土 壤 〔砂土を除く〕	寒冷地, 温 暖地(畑作, 水田裏作)		・土壌処理の地 域拡大と効果 の確認. ・生育期処理の 効果・薬害の 検討.
13. SSH-55乳 ・トリフルラリ ン………14% ・プロメトリン ………6%	「実」	土 壤	播 種 後	70~90 ml 〔但し, 寒 地は70~80 ml〕	全 土 壤 〔砂土を除く〕	全 域 (畑作, 水 田裏作)	1) 砕土, 整地, 覆 土をていねいに 行って均一に散 布する.	
14. UBH-820 水和 ・成分未公開 ………25%	「継」							・成分未公開, 効果・薬害の 検討, 初年目.
15. UBH-821 水和 ・成分未公開 ………12.5%	「継」							・成分未公開, 効果・薬害の 検討, 初年目.
16. BGX-816 水溶 ・ピアラホス ………8% ・グリホサート ………16%	「実・継」	茎 葉	耕起前14 日	50~60 g	全 土 壤	温暖地東部 (畑作, 水 田裏作)	1) 一年生雑草対象. 2) 周辺作物への飛 散に注意する.	・処理時期と効 果の確認. ・地域拡大.
17. MW-831 水溶 ・ピアラホス ………20%	「実」 (前年 通り)	茎 葉	耕起前7 ~14日	30~50 g	全 土 壤	寒冷地以西 (畑作, 水 田裏作)	1) 一年生雑草対象. 2) 周辺作物への飛 散に注意する.	

Ⅱ 大麦類

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. DPX-16 ドライフロ アブル ・スルホチフェ ニユロン ………75%	「実・継」	茎 葉	麦4葉～ 節間伸長 前, スズ メノテッ ポウ4～ 5葉期ま で。	0.75～1g	壤土～埴土	温暖地東部 (畑作, 水 田裏作)	1) 対象: 二条大麦, 六条大麦。 2) 一年生広葉雑草 およびスズメノ テッポウ対象。 3) 体系処理: 土壌 処理剤との体系 処理で使用する。	・薬量・処理時 期の検討。 ・適用土壌拡大。 ・地域拡大。
2. EL-107 水和 ・イソキサベン ………50%	「実・継」	土 壌	播 種 後	4～6g	壤 土	温暖地東部 (畑作, 水 田裏作)	1) 対象: 六条大麦。 2) 一年生広葉雑草 対象。 3) 後作物はイネ科 作物に限る。	・地域拡大。
3. FLH-200 粒 ・イソキサベン ………0.4% ・トリフルラリ ン………2%	「実・継」	土 壌	播 種 後	400～500g	壤土～埴壤 土	寒冷地, 温 暖地東部 (畑作, 水 田裏作)	1) 対象: 二条大麦, 六条大麦。 2) 碎土, 整地, 覆 土をていねいに 行って均一に散 布する。 3) 後作物はイネ科 作物に限る。	・地域拡大。
4. KUH-813 細粒 ・オルソベンカ ーブ………8% ・リニユロン ………1.2%	「実・継」 (前年 通り)	土 壌	播 種 後	400～500g	全 土 壌 〔砂土を除 く〕	寒冷地, 温 暖地(畑作, 水田裏作)	1) 対象: 二条大麦, 六条大麦。 2) 碎土, 整地, 覆 土をていねいに 行って均一に散 布する。	・地域拡大。
5. MB-206 粒 ・リニユロン ………1.5%	「実・継」	土 壌	播 種 後	500～600g	壤土～埴土	寒冷地, 温 暖地東部 (畑作, 水 田裏作)	1) 対象: 二条大麦, 六条大麦。 2) 碎土, 整地, 覆 土をていねいに 行って均一に散 布する。	・効果の確認。 ・適用土壌拡大。 ・地域拡大。
6. NY-712 水和 ・ピリデート ………40%	「継」							・効果・薬害の 検討, 初年目。
7. PL-10 乳 ・既知化合物A ………15% ・既知化合物B ………10%	「継」							・成分未公開, 効果・薬害の 検討, 初年目。

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
8. RSH-44乳 ・ジフルフェニ カン…40g/l ・トリフルラリ ン…400 g/l	「継」							・効果・薬害の 検討, 初年目.
9. グリホサート 液 ・グリホサート ………41%	「実・継」	茎 葉	耕起前7 ～14日	25～50ml <水量2.5 l/a> 50 ml <水量10 l/a>	全 土 壌	温暖地(畑 作, 水田裏 作)	1) 対象: 二条大麦, 六条大麦. 2) 一年生雑草対象. 3) 周辺作物への飛 散に注意する.	・地域拡大.
10. MW-831 水溶 ・ピアラホス ………20%	「実・継」	茎 葉	耕起前7 ～14日	30～50 g	全 土 壌	温暖地(畑 作, 水田裏 作)	1) 対象: 二条大麦, 六条大麦. 2) 一年生雑草対象. 3) 周辺作物への飛 散に注意する.	・地域拡大.
11. BAS-3510 Na 液 ・ペンタゾン ………40%	「継」							・効果・薬害の 検討, 初年目.

Ⅲ い ぐ さ

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. Hoe-171 ①乳 ・フェノキサブ ロップエチル ………90 g/l	「実・継」 (前年 通り)	茎 葉 (落水)	イグサ先 刈後～ノ ビエ5葉 期まで.	10～15ml	全 土 壌	温暖地西部 以西	1) 冬雑草を有効除 草剤で防除した あとに使用する. 2) イネ科一年生雑 草対象.	・効果の確認.
2. MC-79 粒 ・ピフェノック ス………7%	「実・継」	土 壌 (湛水)	植付後, 冬雑草発 生始期ま で.	300～500 g	壤土～埴土	温暖地西部 以西	1) 冬雑草対象. 2) 夏雑草対象除草 剤との組合せで 使用する. 1) 冬雑草対象除草 剤との組合せで 使用する.	・効果・薬害の 確認.
3. NC-302① フロアブル ・キザロホップ エチル…10%	「実」 (前年 通り)	茎 葉 (落水)	イグサ先 刈後～ノ ビエ5葉 期まで.	10～15ml	全 土 壌	温暖地西部 以西	1) 冬雑草を有効除 草剤で防除した あとに使用する. 2) イネ科一年生雑 草対象.	

IV 水稻刈跡

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. MW-831 水溶 ・ピアラホス ……………20%	「実・継」	茎 葉	稲刈取後 ～翌年耕 起前まで.	50～75 g	全 土 壌	温 暖 地	冬雑草対象.	・効果の確認.
				75～100 g		暖 地		
				75～100 g		温暖地西部 以西	セリ対象.	
			稲刈取後 (ミズガ ヤツリ再 生後)～ 塊茎形成 始期(9 月下旬) まで.			温暖地東部, 暖地	ミズガヤツリ対 象.	

B 生育調節剤

I 小 麦

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. エテホン 液 ・エテホン ……………10%	「実・継」	茎 葉	出穂始期	200～300 μ 〔但し、寒 地は200 μ 〕 <水量5～ 10l/a〔但 し、寒地、 寒冷地は10 l/a〕>	全 土 壌	全 域	1) 小麦対象. 2) 倒伏軽減効果.	
			穂ばらみ 期～出穂 始期.	200 μ <水量10 l/a>		寒冷地, 温 暖地		
2. KUH-833 F $\oplus$ フロアブル ・KUH-833 ……………25%	「継」							・効果の確認.
3. BR-10 液 ・ブラシノライ ド……………10 μ	「継」							・処理時期, 薬 量の検討.

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
4. FC-1599 フロアブル ・ピラゾロイド イソチノリン ………5%	「継」							・効果の検討.
5. JRDC-694 乳 ・エピブラシノ ライド …0.005%	「継」							・処理時期, 薬 量の検討.

① —— は、本年度拡大または追加された部分を示す。なお、薬剤名の—— は、本年度はじめて使用基準の作成されたものである。

② ----- は、その一部が拡大されたものである。

コシヒカリ・ササニシキの倒伏軽減は

稲作基本技術 プラス セリタード®粒剤 で

●成分 …………… イナベンフィド6%

●使用基準

作物名	使用目的	使用時期	使用回数	10アールの 当りの 使用量	使用方法
水 稻	下位節間短縮による倒伏軽減	出穂 40～60日前	1 回	3～4kg	渇水条件下で均一に散布する。

●セリタード粒剤の倒伏軽減

◎主として下位の節間を短縮し全体の稈長を短かくします。

◎倒伏の角度を小さくします。

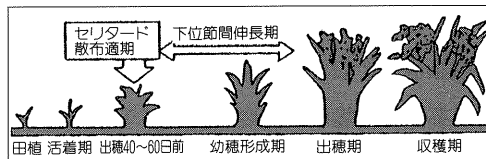
◎倒伏の時期を遅らせます。

◎挫折倒伏を少なくします。

刈取作業能率アップ
登熟向上
品質・収量に好影響

●セリタードの使用時期

イネの下位節間の伸長に合わせ、出穂40～60日前に散布します。



●セリタードを上手に使うために、次の事を守ってください。

- ①出穂40～60日前に、渇水条件下でできる限り均一に散布してください。
- ②散布後は3～5日間止水をしてください。
- ③地区施肥基準を守り、安易な増肥はしないでください。
- ④散布時期が中干しと重なる場合は、軽中干しをしてから湛水し、散布してください。その後、水が自然になくなってから本格的な中干しをしてください。



中外製薬

東京都新宿区西新宿1-21-1 明宝ビル
〒160 TEL.(03)348-7941(代表)

黒ボク土壌、地力窒素の高い土壌等では、効果の現われにくい場合がありますので、指導機関にご相談の上お使いください。